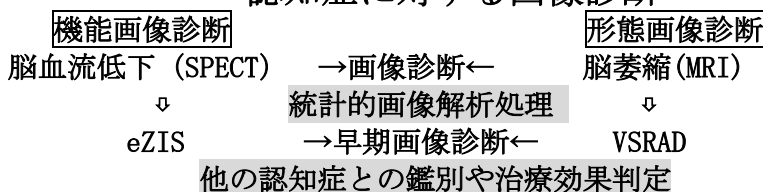
	シリーズ名	認知症患者における SPECT/CT の有用性に関する研究
	所属・役職・氏名	核医学・講師・東山 滋明 (HIGASHIYAMA, Shigeaki)

<要旨>

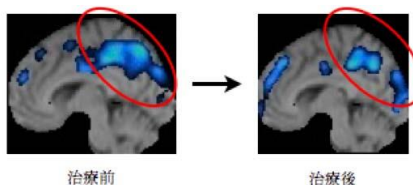
アルツハイマー型認知症 (AD) 等の変性型認知症の治療においては、認知機能障害が軽度である時期から認知機能低下を抑制することが最も効果的とされており、早期の診断と治療開始が重要である。近年、形態の異なる各個人の脳画像情報を標準化された脳図譜上に表示する処理 (解剖学的標準化) が開発され、早期 AD のわずかな血流低下や脳萎縮の程度を z 値と呼ばれる定量値として描出可能となった。当院核医学検査室では、脳血流シンチグラフィ検査と頭部 MRI 画像に統計的画像解析処理を施行し、AD の早期診断およびレビー小体型認知症やアルコール依存に伴う認知症などの他の認知症との鑑別診断を行い、効果判定や予後予測の検討も行っている。

<研究シリーズ説明>

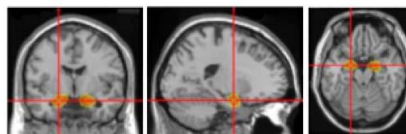
認知症に対する画像診断



eZIS((easy Z-score imaging system):  
血流の低下が青い領域として示され、図中の赤い丸印で囲まれた部分がDATに特異的な血流低下を示す後部帯状回・楔前部と呼ばれる部分である。左が治療前、右は治療後の画像で、後部帯状回・楔前部の血流低下の範囲は縮小している。臨床的にも認知機能の改善が見られた。



VSRAD(Voxel-based Specific Regional Analysis for Alzheimer's Disease) : 対象患者のMRIのT1強調画像を画像統計解析により標準化した後、認知機能障害における形態的画像診断で着目される海馬傍回近傍の脳萎縮の程度を正常データベースと比較し、自動的にZ値として算出する。



<アピールポイント>

FDG-PET による脳糖代謝の検査も同時に施行することが可能である。

画像診断の際には検査依頼元である精神神経科の臨床医も画像診断に加わり診断の正確性を高めている。またアルコール依存治療クリニック等他病院の症例も検査を行っており患者数は豊富である。

<利用・用途・応用分野>

認知症の治療前後に、検査依頼元の精神神経科医師も加わった合同カンファレンスを行い治療効果判定や認知症状の予後予測についての検討を行っている。早期 AD や他の認知症の診断を行う事や認知症状の進行の予測は、患者のみならず家族の QOL の向上に非常に有用と考えられる。

アルコール依存治療クリニックと連携を取り、アルコール依存症患者の認知症状と AD との鑑別や、断酒治療前後の脳血流の変化の検討も行っている。

<利用・用途・応用分野>

認知症の治療前後に、検査依頼元の精神神経科医師も加わった合同カンファレンスを行い治療効果判

定や認知症状の予後予測についての検討を行っている。早期 AD や他の認知症の診断を行う事や認知症状の進行の予測は、患者のみならず家族の QOL の向上に非常に有用と考えられる。アルコール依存治療クリニックと連携を取り、アルコール依存症患者の認知症状と AD との鑑別や、断酒治療前後の脳血流の変化の検討も行っている。

<知的財産権・論文・学会発表など>

特になし

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/nucmed/>

<他分野に求めるニーズ>

特になし

キーワード

認知症、アルコール依存、脳血流 SPECT、統計的画像解析、画像診断